

Hara Museum of Contemporary Art

そこにある、時間—ドイツ銀行コレクションの現代写真

2015年9月12日[土]—2016年1月11日[月・祝] 原美術館[東京都品川区]



【図版1】 曹斐(ツァオ フェイ)「自分の未来は夢にあらず 02」
2006年/120 x 150 cm/Cプリント © Cao Fei / Deutsche Bank Collection

【概要】

紙の作品のコレクションとしては最高峰とされる、ドイツ銀行の現代美術コレクション約60,000点より、1970年代から最近にいたる写真芸術の魅力を、アジア・アフリカ・アメリカ・ヨーロッパのアーティスト約40組60点の秀作で紹介いたします。

本展は、「《時間》を切り取ってメディアに定着させる」という写真の性質を活かしたさまざまな表現を鑑賞することで、芸術表現としての《写真》の魅力を再確認していただく試みです。

また、世界各国のアーティストたちが共通言語としての現代美術にいかに取り組んでいるのか、という点も本展の見どころです。ベルント&ヒラ ベツヒャー、アンドレアス グルスキー、ゲルハルト リヒターなど国際的に知られるドイツの作家たち。曹斐(ツァオ フェイ)、チヨン ヨンドウ、劉錚(リウ ジェン)など近年注目を集めるアジアの作家たち。杉本博司、佐藤時啓、やなぎみわなど日本の作家たち。さらに、アフリカ・アラブ・東欧など、それぞれの文化的・社会的背景のもとで模索する作家たち。彼らの表現から、加速化するグローバル化の流れの中にある現代の写真表現を展覧する試みとなります。

【本展の特徴(1)】——《写真》を通して《時間》を見る

本展の特徴の一つは、《写真》の本質および芸術的メディアとしての可能性を《時間》という視点から検証するところにあります。

現在の時間と過去の時間は
おそらく未来の時間の中に現在し
未来の時間はまた過去の時間の中に含まれる。
あらゆる時間が永遠に現在するとすれば
あらゆる時間は償うことのできぬもの。

T. S. エリオット『四つの四重奏』(1935)第一部「バートン・ノートン」より
(引用元:岩崎宗治=訳、岩波文庫、2011年)

展覧会の英語タイトル「Time Present」は、上に引用した T. S. エリオット(1888-1965、米→英、1948年ノーベル文学賞)の詩句から採ったものです。上の引用で「Time Present」は「現在の時間」と訳されていますが、引用箇所からもわかるとおり、エリオットは過去・現在・未来を区別しない独特の時間概念を志向しており、それは哲学者アンリ ベルクソン(1859-1941、仏、1927年ノーベル文学賞)が「純粋持続」と捉えた時間概念に通じるものがあります。一般的に私たちの日常の生活や社会活動は、《時計》と《暦》という数値に還元される時間とともにありますが、私たちの生にとって、《時間》はもっと多様で複雑なものです。それゆえ哲学や芸術では、エリオットやベルクソンだけではなく、昔からさまざまな《時間》を考察してきましたし、文化人類学や民俗学では、共同体(集団)における文化としての《時間》も研究されています。

一方、写真はそのメカニズムの特徴から言って(アナログ・デジタルを問わず)、《時間》を切り取ってイメージに定着するメディアです。写真が《撮影》というアクションで切り取る時間といえば、シャッターを押す短い《瞬間》がただちに連想されます。そして撮影した《そのとき》と、出来上がった写真を見ている《いま、このとき》は、前者が《過去》であり後者が《現在》という絶対的な《時間差》があります。写真を自らの表現手段として使うアーティストは、そのような写真の性質を活かして、さまざまな《時間》のイメージを作品として提示しています。同時に、そうした写真作品を見ることによって、すなわち、それぞれの表現の中にある《時間》を感じ取ることによって、私たちは《時間》を省察するとともに、芸術的メディアとしての《写真》の魅力を再確認できることにもなるでしょう。

この世に《写真》が誕生して 200 年足らず、この間に写真は生活と社会の隅々にまで浸透しました。さらにこの 20 年足らずの間にデジタル化が進行し、写真は一層身近になっただけでなく、それなしの生活も社会も想像できないほどになっていると言えます。私たちにとって《写真》とは何なのか、それを再考するうえで本展はよい刺激となることでしょう。

【本展の特徴(2)】——現代美術とグローバリゼーション

本展は、作品のメディアを《写真》に限定している一方で、出品アーティストの一覧を眺めるとかなりグローバルであることが特徴です。現代美術の領域でも、特に 2000 年以降、グローバリゼーションの流れは急速に進行した感があります。国際現代美術展としては世界最大級の規模で、100 年以上の歴史を持つヴェニスビエンナーレも参加国数は増え続けています。本展出品のアーティスト約 40 組はアジア・アフリカ・アメリカ・ヨーロッパと多岐にわたっており、多様な文化的・社会的背景のもとで共通言語としての現代美術にどのように取り組んでいるのか、その点も本展の見所であるといえます。

また、本展は、英語題名「Time Present - Photography from the Deutsche Bank Collection」として、アジア各国の美術館を会場とする国際巡回展です。2014 年秋にシンガポール美術館で開催されたのを皮切りに、インド・ムンバイの国立近代美術館(2015 年春)を経て、日本では東京・原美術館のみの開催となります。

【原美術館とドイツ銀行コレクション：二度目のコラボレーション】

企業が文化活動として行っている美術コレクションの中でも、ドイツ銀行コレクションは質量ともに世界屈指のものと言えます。原美術館では、2006年にも「舞い降りた桜 ザハ ハデイドとめぐるドイツ銀行コレクション」と題して、女性として初めてプリツカー賞を受賞した建築家ザハ ハデイドの会場デザインにより、企画展を開催したことがあります。ドイツ銀行のコレクション活動は、偶然ながら原美術館創立と同じ年、1979年から始められました。世界各国に支店網を持つドイツ銀行は、現代美術コレクションにおいてもグローバルな視野で行っており、それは本展の内容にもうかがうことができます。出品作品そのような独特の視点で集められたコレクションの中から選りすぐった秀作ぞろいです。

【出品作家一覧】

シリン アリアバディ	Shirin Aliabadi	(1973～ イラン)
カデル アティア	Kader Attia	(1970～ フランス)
イト バラーダ	Yto Barrada	(1971～ フランス)
ベルント&ヒラ ベッヒャー	Bernd & Hilla Becher	(1931～2007/1934～2015 ドイツ)
ゾーラ ベンセムラ	Zohra Bensemra	(1968～ アルジェリア)
ジェラード バーン	Gerard Byrne	(1969～ アイルランド)
曹斐 (ツァオ フェイ)	Cao Fei	(1978～ 中国)
スーザン ダージェス	Susan Derges	(1955～ イギリス)
フィリップ=ロルカ ディコルシア	Philip-Lorca diCorcia	(1951～ アメリカ)
ハサン&フセイン エソップ	Hasan and Husain Essop	(1985～ 南アフリカ)
ギュンター フェルク	Günter Förg	(1952～2013 ドイツ)
ルイジ ギッリ	Luigi Ghirri	(1943～92 イタリア)
アンドレアス グルスキー	Andreas Grusky	(1955～ ドイツ)
シヴォーン ハパスカ	Siobhán Hapaska	(1963～ 北アイルランド)
マチルド テル ハイネ	Mathilde ter Heijne	(1969～ フランス)
カンディダ ヘファー	Candida Höfer	(1944～ ドイツ)
オットマー ヘール	Ottmar Hörl	(1950～ ドイツ)
チョン ヨンドゥ	Yeondoo Jung	(1969～ 韓国)
イドリス カーン	Idris Khan	(1978～ イギリス)
ジェフ チェンシエン リャオ	Jeff Chien-Hsing Liao	(1977～ 台湾)
マルティン リーブシャー	Martin Liebscher	(1964～ ドイツ)
劉錚 (リウ ジェン)	Liu Zheng	(1969～ 中国)
シャロン ロックハート	Sharon Lockhart	(1964～ アメリカ)
ボリス ミハイロフ	Boris Mikhailov	(1938～ ウクライナ)
フリオ セザール モラレス	Julio César Morales	(1966～ メキシコ)
エイドリアン パチ	Adrian Paci	(1969～ アルバニア)
コーネリア パーカー	Cornelia Parker	(1956～ イギリス)
シグマー ポルケ	Sigmar Polke	(1941～2010 ドイツ)
ゲルハルト リヒター	Gerhard Richter	(1932～ ドイツ)
クラウス リンケ	Klaus Rinke	(1939～ ドイツ)
佐藤時啓	Tokihiro Sato	(1957～ 日本)
ダヤニータ シン	Dayanita Singh	(1961～ インド)
トーマス シュトルート	Thomas Struth	(1954～ ドイツ)
アネット シュトゥート	Anett Stuth	(1965～ ドイツ)
杉本博司	Hiroshi Sugimoto	(1948～ 日本)
マッシモ ヴィターリ	Massimo Vitali	(1944～ イタリア)
やなぎみわ	Miwa Yanagi	(1967～ 日本)
朱加 (チュウ ジャ)	Zhu Jia	(1963～ 中国)

※作家の記載は姓のアルファベット順で「氏名・生没年・出身地域」

【広報用図版】

*ご希望の図版番号をプレス担当宛（連絡先は p.5 参照）にお知らせください。

*掲載時にはクレジットの記載をお願いいたします。また、図版のトリミング、文字載せはご遠慮ください。



【図版 2】



【図版 3】



【図版 4】



【図版 5】



【図版 6】



【図版 7】



【図版 8】

- 【図版 1】 曹斐(ツァオ フェイ)「自分の未来は夢にあらず 02」2006年/120 x 150 cm/C プリント
© Cao Fei / Deutsche Bank Collection
- 【図版 2】 やなぎみわ「My Grandmothers: MINEKO」2002年/87.5 x 120 cm/C プリント
© Loock Galerie / Deutsche Bank Collection
- 【図版 3】 杉本博司「ローズクラン ドライブインシアター、パラマウント」1993年/42 x 54 cm/ゼラチンシルバープリント
© Hiroshi Sugimoto / Deutsche Bank Collection
- 【図版 4】 アネット シュトゥート「記憶」2004年/180 x 250 cm/C プリント
© Anett Stuth / Deutsche Bank Collection
- 【図版 5】 ゾーラ ベンセムラ「アフガニスタン」2009年/61 x 85 cm/C プリント
© REUTERS/Zohra Bensemra / Deutsche Bank Collection
- 【図版 6】 クラウス リンケ「瞬時の移動」1972年/251 x 130 cm/ゼラチンシルバープリント
© Klaus Rinke / Deutsche Bank Collection
- 【図版 7】 イト バラーダ「系図」2005年/150 x 150 cm/C プリント
© Courtesy the artist and Sfeir-Semler Gallery, Beirut/ Hamburg / Deutsche Bank Collection
- 【図版 8】 マッシモ ヴィターリ「#2232, マディーマの波」2005年/220 x 180 cm/C プリント
© VG Bild-Kunst, Bonn 2015 / Deutsche Bank Collection

【開催要項】

展覧会名 「そこにある、時間—ドイツ銀行コレクションの現代写真」(省略表記:「そこにある、時間」展)
(英題 *Time Present – Photography from the Deutsche Bank Collection*)

会期 2015年9月12日[土]—2016年1月11日[月・祝]

会場 原美術館

主催 原美術館、ドイツ銀行

後援 ドイツ連邦共和国大使館

H A R A
MUSEUM



Deutsche Bank



開館時間 11:00 am - 5:00 pm(祝日を除く水曜は8:00 pmまで/入館は閉館時刻の30分前まで)
休館日 月曜日(祝日にあたる9月21日、10月12日、11月23日、1月11日は開館)、9月24日、10月13日、11月24日、年末年始(12月28日—1月4日)
入館料 一般1,100円、大高生700円、小中生500円/原美術館メンバーは無料、学期中の土曜日は小中高生の入館無料/20名以上の団体は1人100円引
交通案内 JR・京急「品川駅」高輪口より徒歩15分/都営バス「反96」系統「御殿山」停留所下車、徒歩3分/京急「北品川駅」より徒歩8分
*掲載時、省略される場合は「品川駅」を優先してください。

原美術館 東京都品川区北品川 4-7-25 ☎140-0001

Tel 03-3445-0651(代表) Fax 03-3473-0104(代表) E-mail info@haramuseum.or.jp

ウェブサイト <http://www.haramuseum.or.jp> 携帯サイト <http://mobile.haramuseum.or.jp>

ブログ <http://www.art-it.asia/u/HaraMuseum> ツイッター [@haramuseum](http://twitter.com/haramuseum)

ギャラリーガイド 日曜・祝日には当館学芸員によるギャラリーガイドを行ないます(2:30pmより30分程度)

【関連イベント】

本展会期中にさまざまな関連イベントを準備しています。下記以外にも準備中のイベントがあり、その詳細は決まり次第発表の予定です。

(1) 映像作品上映(予約不要、先着順)

原美術館ザ・ホールにて、ドイツ銀行コレクションの中から、曹斐(ツァオ フェイ)、フリオ セザール モラレス、蔡國強(ツァイ グオチャン Cai Guo-Chang)の映像作品を上映。

合計3作品、約45分間。入館料のみ必要。

会期中の水曜日(9月23日と12月23日はのぞく)、6:00 pm～

(2) 開催記念キュレータートーク(予約制)

フリードヘルム ヒュッテ[ドイツ銀行 グローバル ヘッド オブ アート] 聞き手:安田篤生[原美術館]

日時:9月12日[土] 2:00 - 4:00 pm/場所:原美術館ザ・ホール

入館料のみ必要。ご予約はe-mailにて、表題に[9/12トーク申込]、

本文に氏名、ご連絡先電話番号、人数を明記し、event@haramuseum.or.jp までお送りください。

(3) ワークショップ

出品作家の佐藤時啓(2015年芸術選奨文部科学大臣賞受賞)による、親子で参加できる体験型ワークショップ。10月31日[土] 原美術館ザ・ホールにて

詳しい内容ならびに参加費、申込み方法は後日発表

【本展カタログ】

国際巡回用に制作した英語版カタログに、テキスト部分の日本語訳を別冊付録として添付、頒布の予定。出品作品全点をカラーで掲載。頒布価格未定。

英語版:240×240mm、174ページ、オールカラー、並製・カバー装

別冊(日本語訳):240×240mm、28ページ、モノクロ、中綴じ

【出品作品数】

写真作品 約60点

取材・図版提供などのお問い合わせ先: 原美術館 広報 松浦、野田(担当学芸員 安田) Tel 03-3280-0679 Fax 03-5791-7630
E-mail press@haramuseum.or.jp (いずれも広報直通/掲載時には代表番号・アドレスをお用ください)